日本共産党

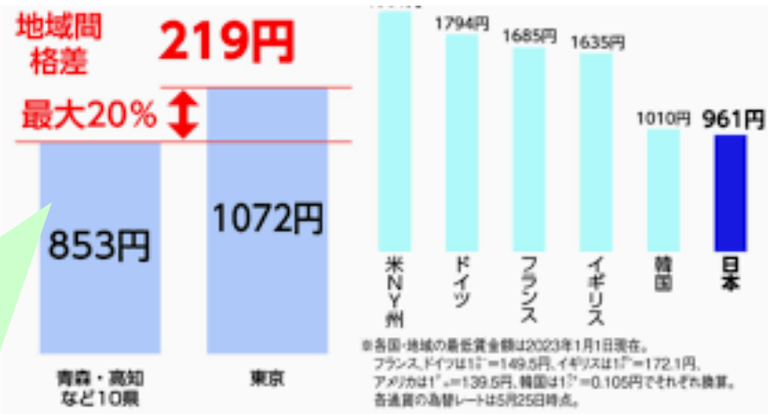
しまむら新一 議員ウィークダイアリー

23.5/8 No.1

市議会議員報告

日本共産党市議会議員
しまむら新一事務所
事務所/〒270-0021
松戸市小金原 4-11-29
☎047-309-2651
FAX047-309-2652
松戸・鎌ヶ谷地区委員会
事務所／〒270-2252
松戸市千駄堀 1810-2

同じ仕事をしても青森県・高知県などの D ランクの自治体と最高額の東京都では、１時間で 219 円の差があります。８時間働けば 1,752 円、月３万５千円、年 42 万円の差がでます。時給の高い都市部に労働人口が集中してしまう原因にもなっています。



第94回松戸地域メーデーに参加者150名超

賃金アップ！大軍拡・大増税NO！

５月１日（月）第 94 回松戸地域メーデーが松戸駅西口デッキで行われ、労働組合、市民団体、法律事務所や市民が約 150 名参加し、それぞれの要求をアピールしました。

今年のメーデーは、４月に投開票があった地方統一選挙の直後に行われました。日本共産党市議団は、リレートークのなかで再選を果たした鎌ヶ谷市議・松原よし子議員と議員団４名（山口議員、ミール議員、宇津野議員、嶋村）の５名で、詩人・谷川俊太郎さんの「生きる」をモチーフにした詩「怒る」の群読をぶっつけ本番で行いました。また、県議選で６期目の再選を果たしたみわ由美県議は新型コロナに感染し、残念ながら当日参加ができませんでした。

岸田政権が大軍拡・大増税に突き進む情勢のもとで開かれたメーデー、新しい戦前にしないための国民共同の取り組みがいま、求められていることを感じている方が多かったためでしょうか、参加者数は実行委員会の予想を超える人数になりました！

集会後は、西口周辺の商店街をパレードし、市民にアピールしました。

時給1500円が最低賃金！

日本の労働者の賃金、時給はここ 20 年ほど大きく上がらずに横ばい状態です。実質賃金では、ここ 10 年でも 24 万円減っています。特に昨年秋口からの物価高騰、光熱費などの値上げで国民の生活は経済的に大変苦しくなっています。

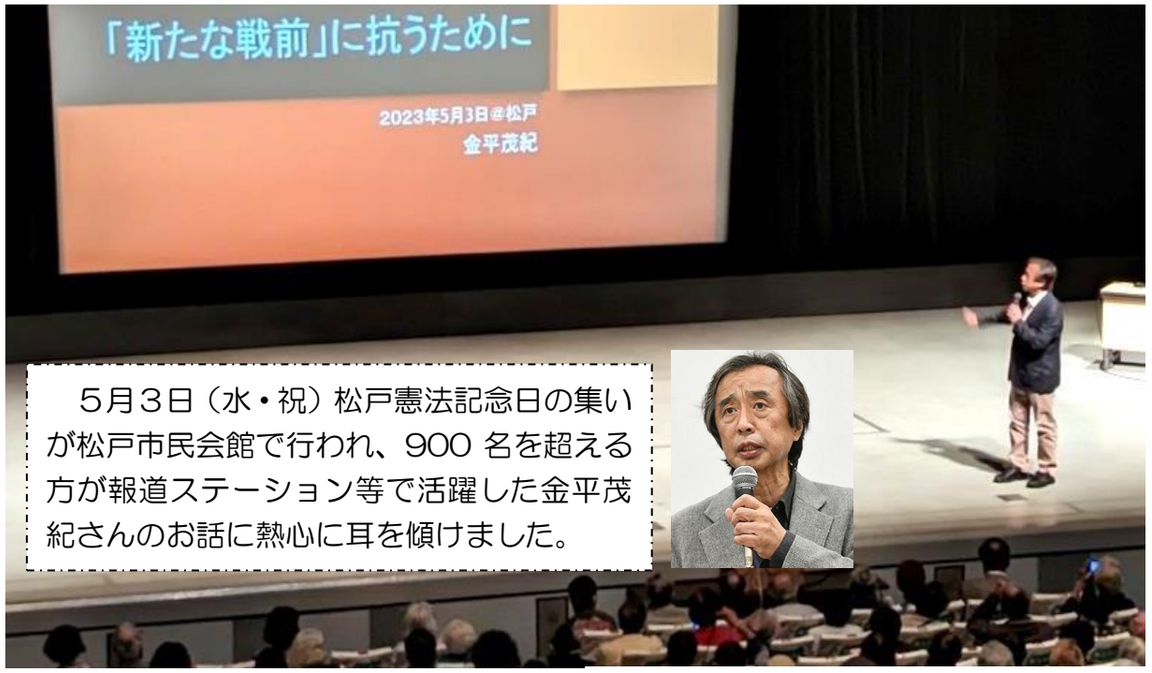
ＥＵ諸国やアメリカでは、すでに時給 1500 円を超えています。日本では 2022 年の最低賃金改定で、前年度より 30 円以上アップし、平均 961 円になりましたが、この時給額では、年収で約 185 万円にしかなりません。憲法 25 条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」にほど遠い金額です。

25 歳単身でアパートなどを借りて生活するには１カ月に最低限どのくらいのお金が必要か調査する「最低生計費調査」が労働組合や大学の研究者たちによってここ数年行われました。その結果、どこの地域でも１カ月 24 万円から 26 万円必要なことが分かってきました。その時給割が 1500 円から 1600 円です。

健康で文化的な生活を送るには、最低 1500 円の時給が必要です。今の最低賃金額は憲法 25 条の理念に反します。

2023年松戸憲法記念日の集い、金平茂紀さん講演会に900名超参加！

少数派になることを恐れない、多様な意見に耳を傾けること！



５月３日（水・祝）松戸憲法記念日の集いが松戸市民会館で行われ、900 名を超える方が報道ステーション等で活躍した金平茂紀さんのお話に熱心に耳を傾けました。

金平さんは、2022 年に起きたロシアのウクライナ侵略、安倍元首相の凶弾死事件をあげ、歴史の分岐点の年ではと投げかけ、新しい戦前にしないための市民の、地域での取り組みの大切さを強調しました。

統一協会問題や放送法文書問題が報じられてもいつの間にか忘れ去られて、デマゴーグばかり拡散し続ける知識人ばかりがもてはやされる日本の状況です。昨年末、ロシアを訪れた金平さん、プーチン大統領の顔がプリントされたトイレットペーパーが売られていたことに、あのロシアでも権力者をおちょくるユーモア精神が残っていることに民衆の強さを感じたといいます。一方で、2023 年のモスクワ「赤の広場」はとてもウクライナと交戦中とは思えないほど明るい雰囲気であり、近くの公設市場もふんだんに多くの食べものが売られており、戦争は簡単には終わらないと感じたということです。

「新しい戦前」に抗うために忘れてはいけないことは、●魅力的な人・もの・ことに関心を持つこと、●ユーモアを大切にすること、●政治とは身近なところから変えていくべきことを変えていくことだと強調しました。

最後に坂本龍一さん、大江健三郎さん、鈴木邦男さんら「戦後を守ること」を考え続けて人の言動を振り返りました。そして、筑紫哲也さんが最後の「NEW23」で「変わらないものがある」と言ったことと、権力を監視し、少数派になることを恐れない、そして多様な意見に耳を傾ける姿勢を常に持つことをこれからも大切にしたいと、参加者に誓うよう語りかけました。

急きょ、ウクライナ写真家・ヴェラ=ブランシュさんの写真展示！

市民会館ロビーに展示されるはずだったウクライナの子どもたちの絵は、戦況悪化で届かないことが２日前に判明しました。実行委員がウクライナ大使館へ事情を説明し、他の企画を問い合わせると大使館の職員の方の計らいで、写真家ヴェラ・ブランシュさんの写真を急きょ展示できることになりました。

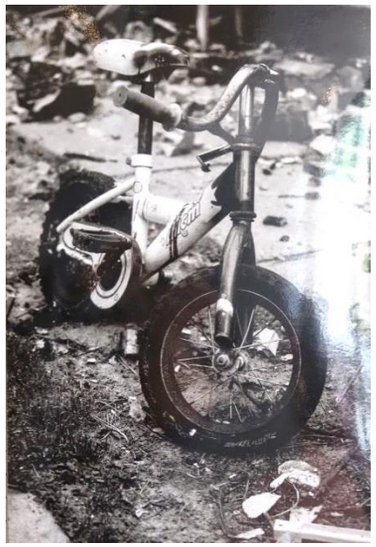
ブランシュさんは有名ファッション誌で活躍するウクライナでは著名な写真家です。ブランシュさんは「見るだけでつらく、撮影意欲を高めることは難しかった。でも泣いていては撮れない。本当は撮影を止めて移動したかった」と語るも「写真家としてできることを」と軍に連絡して従軍写真を撮ることを決意しました。モノクロの静けさの中から深い悲しみや怒りが伝わってきます。

当日はヴェラさんご本人が来館して展示の仕方を指示してくれました

▲昨年 4 月、北西部のジトーミルで撮影。首都キーウから西へ逃れようとした女性と子どもが乗った車が襲われた。車体はゆがみ、銃弾の痕が残る。

▲ロシアとウクライナの友好のために建てられたビルが砲撃された

▲壊れたロシアの戦車で遊ぶ子



▲砲撃で壊れた子どもの自転車